



空飛ぶ
円盤



川崎ゆきお

「最近円盤が出ないねえ」

「円盤？」

「空飛ぶ円盤だよ」

「ああ、UFOですね。未確認飛行物体」

「昔はよく出たんだ」

「見られましたか」

「いや、見た人が知り合いにいた。複数ね」

「何処ですか」

「五月山だ」

「知りません」

「近くの山だ。小さいがね。山脈というにはバラバラだが、平野部を取り囲んでいる。壁のよう
にね。山の向こうは昔は山また山だった。今は山向こうにも家が建ち、町ができているがね」

「その五月山に出たのですか」

「平野部から見ると、五月山の上に出た」

「月が出た出た月が出たのような感じですね」

「ああ、お盆のような円盤がね」

「じゃ、UFOの名所なのですか」

「そうだね、何かというと、五月山の上空に、となった。そのあと山の向こう側へ消える」

「それが最近出ないと」

「そうなんだ。山向こうにニュータウンができてから、出なくなった。いや時代かな。UFOが
よく出ていた時代があるんだ。ツチノコもそうだ。その後、目撃談はあまり聞かないねえ。取り
上げなくなったのかねえ」

「そうだと思います」

「五月山の円盤はねえ。光るものが上空にあるってというような曖昧なものじゃないんだ。空港が
近いし、自衛隊の飛行機も飛んでいるからねえ。かなり上空だが。飛行場の光、ライトだね。そ
れが雲に反射か何かで、そう見えたんだろうが、それも含めて空飛ぶ円盤だと言っていたけど、
実際に丸い円盤も目撃されているんだ。実際に見た人もいる」

「あれはねえ、わしが桑の葉をしまっているとき、ふと空を見ると……というような感じですか
」

「いや、学校の校舎から見えて、窓からみんなで見っていたとかもある」

「それも丸い円盤でしたか」

「そこまでは聞いていない。不規則に動いていたとかね」

「ありましたねえ。昔、そういう話が、雑誌なんかでよく見ましたよ」

「もう特集しなくなったのかね。それとも報道規制か何かで」

「U F Oのことに触れてはいけない規制ですか」

「いや、インチキ話を報じないようにと」

「どうなのでしょうねえ」

「しかし、あれほど頻繁に出ていた円盤が出なくなった」

「最近じゃ、宇宙でU F Oが写っていて、当局も認めたとか」

「宇宙」

「はい、なんて言ったかな、宇宙基地があるじゃないですか」

「ああ、ちょっと高いところだろ、国際宇宙ステーションだね」

「あそこは宇宙ですよ」

「そうなのか、大きな人工衛星だろ」

「はいはい」

「じゃ、他の人工衛星や、残骸でも浮いていたんじゃないのかい」

「いえ、方角というか、軌跡が違います」

「何かにぶつかって、違うコースに入ったんだろ」

「まあ」

「それは円盤かい」

「いえ、光るものです」

「形がしっかりなければだめだ。五月山の円盤のように、灰皿を伏せたようなとか、葉巻のよう
なとかね」

「でも、そういう円盤、最近減りましたねえ」

「円盤は宇宙から来るとしてもすごいワープだろうねえ。瞬間移動に近い。だから、飛ばなくても
もいいんだ」

「そうなんですか」

「だから、円盤の形をした円盤は地上の何処かから来る」

「ほう」

「円盤の巣があるんだ。そこから出てくるんだよ」

「ほう」

「昔は五月山の向こう側に円盤の巣があったんだ。それがニュータウンができたので、なくなっ
たんだ」

「そうなんですか」

「まあ、その程度の話さ」

「でも、本当は宇宙人とすでに接触していて、イギリスなんかで国際会議をやっているとか」

「それは本当かもしれないよ。だって、誰も信じないから、大きな声で言っても大丈夫なんだ」

「そうなんですか」

「嘘だよ」

「あ、はい」

了